

がっこうきょういくもくひょう
学校教育目標

わたし
私たちは

しょうがいまな つづ
生涯学び続けることができる人を育てます (知)

みずか かんが た だ はんだん どりよくしつこう ひと そだ
自ら考え正しく判断し、努力実行できる人を育てます (徳)

じ た せいめい たいせつ しんしん けんこう ひと そだて
自他の生命を大切に、心身の健康な人を育てます (体)

「まち」から学び、社会に貢献できる人を育てます (公)

じ た みと あ きょうせい ひと そだ
自他を認め合い共生できる人を育てます (開)

校訓
努力 自律 敬愛
どりよく じりつ けいあい

ひと がっこう
「『人として格好いい』ということについて」

こうちょう まつもと つよし
校長 松本 剛

こんねんど かみ みやちゅうがっこう がっこうようむいん ふたり かた ちゃくにん
今年度、上の宮中学校に、学校用務員としてお二人の方が着任しています。

かみ みやちゅうがっこう さいねんど そうりつ しゅうねん むか かいこういらい こうしゃ たてか なが ねんげつ なか
上の宮中学校は、再来年度、創立50周年を迎えます。開校以来、校舎の建替えはなく、長い年月の中
で、校舎内の様々なところに傷みが出ています。

がっこうようむいん ふたり が がつ こうない せいび つづ
学校用務員のお二人は、4月から、そうした校内の整備をコツコツと続けてくれています。校内の様々
な場所のペンキの塗り替え。大小様々な修繕。倉庫など、普段はあまり目に触れない場所の整理。各階
のトイレの清掃。生徒のみなさんが長期休業に入った夏休み中も、夏休みが明けてからも、そして
今週も、そうした作業を続けています。

なんにん せんせい わたし ようむいん ふたり せいび せいそう がっこう
何人もの先生から、私のところに、「用務員のお二人が整備や清掃をしてくださって、学校がずいぶん
きれいになっています。」という話が届きました。

そこで先日、お二人に、そのことを伝えました。

「先生方からも、学校がきれいになったという話を何度も聞いています。ありがとうございます。」

すると、お二人は、こう答えました。

「いや、やるべきことをやっているだけですから。」

その言葉を聞いたとき、私の頭に「凡事徹底」という言葉が浮かびました。

「凡事徹底」とは、何か特別なことをするという意味ではありません。「あたり前のことを、あたり前
に、そして徹底して続ける」という意味で使われる言葉です。一度だけ頑張るのではなく、日々、やるべ
きことを丁寧に積み重ねていくことです。

かみ みやちゅうがっこう せいと きょうしよくいん あ にんちか ひと まいにちせいかつ いしき
上の宮中学校では、生徒と教職員を合わせて700人近い人が、毎日生活しています。みんなが意識し
て丁寧に、きれいに使ったとしても、学校は毎日少しずつ汚れます。長く使っていれば、様々なところに
不具合も出てきます。それを、一つひとつ整えていく。

だれ ぼ 誰かに褒められるためではなく、「やるべきことをやっているだけです。」と言いながら、毎日その
仕事を続けている。少なくとも私には、お二人の姿はそうに見えました。

わたし ひと がっこう かん
私は、それを「人として格好いい」と感じました。

もう一つ、最近、「格好いいなあ」と感じた出来事があります。

各クラスの授業の様子を見るために校内を回っていたとき、音楽室で、あるクラスが合唱練習をしていました。はじめは、パートごとの練習でした。何人かの生徒は、「歌、苦手なんです」などと話しながらも、パートリーダーの指示を聞き、周りの仲間と一緒に練習に取り組んでいました。

私はいったん音楽室を離れ、ほかのクラスの授業を見て回りました。そして、しばらくして再び音楽室へ行くと、今度は全パートを合わせて歌っていました。後ろのドアから、その様子を見ながら歌声を聴いていました。

多くの生徒のみなさんが声を出し、周りの声を聴きながら、一生懸命に歌っていました。その中で、先ほど「歌、苦手なんです。」と話していた生徒が、肩を揺らし、全身を使うようにして懸命に歌っている姿が目に残りました。

得意なことであっても、得意ではないことであっても、一生懸命に物事に向き合っている姿は、本当に「人として格好いい」と思いました。

思春期には、「一生懸命にやること」を少し恥ずかしく感じたり、「真面目にやるのは格好悪い」と感じたりすることがあるのかもしれませんが。私自身にも、そのような時期がありました。でも、今は違います。

結果がうまくいくかどうかにかかわらず、自分に取り組むべきことに向き合うこと。うまくいかなければ、やり方を変えて、もう一度やってみること。そうやって試行錯誤を繰り返しながら、真面目に取り組んでいる姿を、私は「格好いい」と心から思います。

もちろん、「人としての格好よさ」がどのようなものなのか、その答えは人によって違うでしょう。

「これが格好いいのだから、こういう人になりなさい。」と、私の考えをみなさんに押し付けるつもりはありません。

ただ、みなさんには、それぞれに「格好いい人」になってほしいなあ、とは思っています。

「自分は、どんな人を格好いいと思うのだろう。」

「自分は、どんな人でありたいのだろう。」

今、はっきりとした答えがなくても構いません。また、その答えは、これから様々な人と出会い、様々な経験をする中で、変わっていくのかもしれませんが。

学校用務員のお二人のように、毎日やるべきことを丁寧に積み重ねる姿。得意ではないことにも、一生懸命に向き合う生徒の姿。

日々の学校生活の中には、いろいろな「人としての格好よさ」があります。

みなさんも、自分にとっての「人としての格好よさ」を考えながら、その姿に少しずつ近づいていってほしいと思います。

私自身も、そうありたいと思っています。

「横浜子ども会議 参加生徒の声」

「横浜子ども会議」は、いじめを「しない・させない・見逃さない」安心できる社会を目指し、横浜市長立学校の児童生徒が、いじめについて主体的に考え、話し合う取組です。平成25年度から実施されており、区交流会では、小学生から高校生までの各校の代表が集まり、学校や学年を越えて意見を交わします。話し合ったことや考えたことは、それぞれの学校に持ち帰り、各校での取組につなげていきます。

令和8年8月28日に鶴見区交流会が実施され、本校から生徒会役員2名が参加しました。参加した2名から、当日の話し合いを通して考えたことを紹介します。

「誰もが気づかないうちに誰かを傷つけている」この言葉を聞いて、私は、いじめをなくすことの難しさを改めて感じました。

今回、上の宮中学校ブロックでは、「いじめを見逃さない」ということについて話し合ってきました。コミュニケーションを積極的にとったりすることが「見逃さない」ことに繋がると思います。

そして、一人ひとりが、「相手を傷つけていることでは」という意識をもち、「いじめ」というものを考えることが何よりも大切だと思っています。

この上の宮中学校が、「みんなにとって過ごしやすい学校」になるように全校で協力して行動してきましょう。

(3年 生徒会役員書記)

私は、8月28日に実施された「横浜子ども会議 鶴見区交流会」に参加させていただきました。今年の会議では、「いじめをしない、させない、見逃さない～つながる、広げる、いじめ未然防止の輪～」というテーマをもとに、他校のみなさんと話し合いを進めました。

私はこれまで、いじめに対し、「どうしたらやめさせることができるか」という表面上のことばかり考えていました。しかし、今回の会議を通し、「なぜ起こってしまうのか」「未然に防ぐにはどうしたらよいのか」という当たり前ながら見逃してしまいがちな視点から考えることで、「いじめをなくす」ということの難しさを改めて実感しました。

また、会議の中ではたくさんの意見が出ましたが、その中で特に心に残っているのは、「当人たちがいじめだと気づいていないのではないか」という意見です。これは、私が朝会で伝えたことでもあります。やっている側はもちろん、やられている側も嫌な気持ちになっても、言われるまでは気づけていないケースもあるのではないのでしょうか。だからこそ、周りがそれを見逃さないようにするためには、お互いのコミュニケーションが必要不可欠です。まずは、あいさつからです。ひとりのあいさつで、「いじめを見逃さない」「助けを求めやすい」そんな環境づくりへの第一歩につながると、私は思います。

あいさつから始まるみなさんのコミュニケーションが、「いじめをなくす」ために大事なことです。一人ひとりの日々のあいさつを通して、誰もが安心して過ごせる温かい上の宮中学校を、私たちがつくっていきましょう。

(2年 生徒会役員副会長)

